

私の子豚生産の方法

入部落 林 寅次郎



古来から豚はあまり草を食わない動物といわれていましたが、種豚は雑草やくず野菜、くだものの皮などを十分食わせると、健康な種母体をつくり、しかも丈夫な子豚を数多く安産させるようです。

雑草や野菜を食わせることにより、いつも体内の血液がきれいになり、排せつ物も順調で、分べんされた子豚は健康でよくそろって元気よく、その上飼料代もおどろくほど少なくて済みますので、生産者にとっては一石二鳥で有利です。

子豚から飼育するとは思いつた処置が必要です。まず種小豚を一室に二頭づつ入れて飼育するのが最もよく、初めのうちは新しい雑草、野菜を一頭当たり一日に四キロ位を、四、五回にわけて食べさせます。体重が四十キロ位になれば雑草、野菜も二十キロ位はよく食べます。

また青菜の少ない十二月、一月

二月のためには、青菜がわりに甘しょを植付けておきますが、種豚一頭に三アールは必要です。掘取った甘しょは飼料、また貯蔵しておきます。つるは生のまま食わせませんが、一部は乾燥させて貯蔵しておき、必要ときに五センチほどに切つて、親豚小豚に食わせます。

親子ともよく食べ、そうするこ

道路ぞいにへいや建物の

着工は建設課へ



道路を通っているとき、頭を赤くぬつたコンクリートの柱を見かけることがあります。

この柱は、道路などの公共用地と民地の境いをはつきりさせるもので、境界柱といっています。

皆さんが道路ぞいにへいや建物を建てる時、この境界がはつきりしていないため、道路の用地の

により、冬の豚とりでも青菜はあまり心配はありません。

子豚はなかなか雑草には食いついてきませんが、少しの間は、ために雑草やくだもの皮、野菜を食わせているうちに、二頭がきそつて食べるようになります。そのころともなれば濃厚飼料も半分以下とし、朝夕二回だけ与え、昼は雑草やくず野菜を食わせます。

このようにして飼育した種豚は肉つきはあまりよくありませんが種豚としては最もよいと思います。同居して飼育しておいた豚は、十か月を過ぎるころから一頭づつ

にします。

とくに申し述べたいことは、子豚から完全な種豚とするには、生

後十一か月は絶対必要です。

またその位の期間がなければ完全な体力もできず、何回も分べんできないと思います。少しでもからだに異常があれば安産はできません。

今や農村の現況はいたるところ雑草が繁茂して、農道せましとはびこっています。

この雑草を刈り取つて豚に食わせるくらいは努力が必要で、生産者にとっては、豚に対する愛着心

が最も大切なことではないでしょうか。

豚を可愛がり、何回もそばについて子豚を生ませることにより、種豚も飼主になれて、安心してら

くらくと子豚を分べんします。私たちひとりひとりが日常の生活をとおして物を捨てず、野菜、くだものくすまで豚に食わせて

利用することが大切ではないでしょうか、それがまた優良な子豚の多産ということになって、生産者にかえってくるのです。

(文は、「農業千葉」に掲載されていたものから転載しました。)

一般作物は四万円の奨励金

水田総合利用対策で

米の生産と消費の均衡を保つため、昭和四十六年四月から五カ年計画で始められた稲作転換対策は昭和五十一年三月で終ることになります。

しかし、米の需給事情は、なお過剰基調にあり、また、米以外の食糧農産物で増産の必要にせまられているものがあります。

このようなことから引き続き、昭和五十一年四月から三カ年間で「水田総合利用対策」ということで転作の奨励を行うことになりました。

新しく行われる「水田総合利用対策」では、転作奨励補助金の交付対象作物が、今までとは変わります。

養魚地、及び農業生産施設、果樹の大部分などについては奨励補助金は交付されません。また、一般作物についても奨励補助金が交付されないものがあります。

転作する場合は、役場産業課、農協指導課、あるいは八日市場農業改良普及所へご相談ください。

なお、転作奨励金額の例をあげますと次のとおりです。

▽一般奨励作物(野菜など)十アール当り 四〇、〇〇〇円

▽集団で大豆を作付した場合 十アール当り 五〇、〇〇〇円